

みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2019

報告(抜粋)



<下高井農林高等学校 国際研究部>

テーマ	フードロスについて考え、SDGsバザーで「よりよい世界のために私たちができること」を実施する。
活動内容	<p>(省略) 野沢温泉村のホテルでアルバイトをしている生徒は許可をもらって食べ残しを写真に撮り、もったいない現状を皆で共有した。(中略) 農林高校では普段から農業や食について学んでおり、食べ物を粗末にすることは生産者にとっても悲しいことだという意見が出た。</p> <p>そこで生徒たちは8月下旬から9月頃、近隣のスーパーやコンビニを訪れ、廃棄される商品やサンプル品をバザー品として提供してもらえないか協力を呼びかけた。(中略) 校内だけでなく木島平村とその周辺地域の方々からも多くのバザー品を提供していただいた。(中略)</p> <p>当日(10月16日)、(中略) 多くの方々からご協力をいただき収益金は7,840円に上がり、後日、飯山市災害義援金とユニセフ募金に寄付をした。(中略)</p> <p>今回の取り組みを全校生徒の前で発表し、SDGsに関するアンケートを行った。(中略) 「どんなことができるか」という自由回答には、「マイバックを使う」「みんなと仲良くする」「ボランティアに参加する」などが書かれていた。</p>
活動を通して学んだこと・感じたこと	<p>「夏休み中に近隣の方がたくさんバザー品をもってきてくれて嬉しかった」「こんなに多くの不要になったものがあるなんてもったいない」「結構使えるものばかり」「台風の影響で一般公開が中止となってしまい残念だった」「農林祭中は友達がバザー品をたくさん買ってきて嬉しかった」「大切に使ってほしい」など。</p> <p>(中略) 近年、気候変動による自然災害が多くなっているとも感じ、自分たちが住む地球もずっと安心して暮らせるよう私たち一人一人が取り組まなければならないということをより一層意識したように思う。自分たちの未来は自分たちが行うスモールステップが変えると信じて、これからも世界に目を向けた地域活動を継続することを決意した。</p>
今回の活動から考えられる次の行動	(省略) 今後もSDGsバザーを継続し、まだ食べられるのに、まだ使えるのに廃棄されてしまうもったいない商品が少しでも減らせるよう活動していく。(中略) 信州SDGsフォーラムで発表する機会をいただいた。(中略) 発表後、有機農業に取り組んでいる方から声をかけていただき、今後、企業と高校生が連携した取り組みができないか模索中である。



<長野市立東部中学校 2年 We like sea!>

テーマ	海の資源を守るためにプラスチックの使用を減らす
活動内容	ポスター制作、新聞紙の箱づくり(給食の牛乳の蓋をいれるもの)
活動を通して学んだこと・感じたこと	日々、ビニール袋などのプラスチックを使っているの、いらなくなった新聞紙や資源ゴミで代用し、SDGsに活かしたいと思った。
今回の活動から考えられる次の行動	「プラスチックを使わなくて良い物」を探したり呼びかけをしたい。



<長野高等学校 2年4組7班>

テーマ	No Food Waste
活動内容	<p>(抜粋) 東京都にある、セブン-イレブン・ジャパンさんの本社の吉川一嘉様とみなとく株式会社の沖杉大地様にお話を伺いました。そのなかで、まず第一に消費者の意識を変えていかなくてはいけないということを感じました。そこで、次のような解決策を考えました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やテレビなどのメディアでの報道 2. 飲食店などでのドギーバッグの導入 3. 賞味期限について <p>これらの提案をまとめ、台湾の高校生に食品ロスの現状と解決策を発信してきました。</p>
活動を通して学んだこと・感じたこと	食品ロスというのは、一人ひとりが大量に出しているわけではなく、様々な人が少しずつ出しているものです。つまり、それを減らすのも一人ひとりが少しずつでも気を付けていけば解決に向かうのではないかと思います。
今回の活動から考えられる次の行動	実際にいろいろな方に現状を知ってもらい、行動にうつしていく。



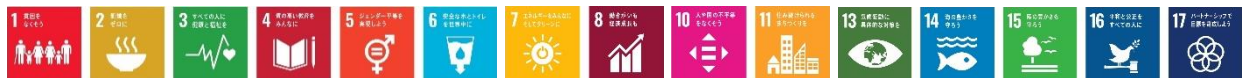
<茅野市立永明中学校 1・2年>

テーマ	永明中学生が中心になり、なるべくおおくのSDGsに取り組もう。～環境・人権～
活動内容	<p>(抜粋)</p> <ol style="list-style-type: none"> A. スーパーに行き、廃棄ゴミの現状を定員さんから話を聞く。できることを考えた。 B. 布おむつを使っていたおばあちゃんの話聞き、おむつのリサイクルの現状を知った。園児を持つ母の悩みを調べた。 C. ポッチャをやった。自分でも球を作り、パラリンピックの種目を広める活動を起案した。 D. 永明寺山のカタクリ自生地の草刈りをし、地域の人との協働で環境を守る活動をした。 E. 市役所の人から、茅野市の問題点を教えてもらい、解決の糸口を探った。 F. 地域作り工房の方と、SDGs マップづくりをした。環境アセスメントから自分たちができることを見つけた。 G. 国連UNHCR 難民と進む 20 億kmの企画をもとに、難民に思いを寄せ諏訪湖を一周した。
活動を通して学んだこと・感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・今までやってきた小さな活動に SDGs のシールがつけられ、地域や世界の役に立っている気持ちになれた。 ・SDGs の項目を見ながら地図や地域を見たり、スポーツの可能性を考えたりすることができた。
今回の活動から考えられる次の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の組織を生かした SDGs を起案中。生活の中でできることをSDGsの項目に当てはめています。 ・企業、行政、地域そして学校の4者が連携して活動することを前提に、協働のアイデアを練っています。



<文化学園長野中学生徒会 執行部>

テーマ	私たちにいまできること。募金をして、台風19号で困っている人たちの力（パワー）になろう！！
活動内容	○高校執行部と共同企画<募金>（抜粋） （1）未来の大人会議 ①いま何ができるか ②そもそも、山岳地長野は台風強いといわれていたのに、なぜ甚大な被害をもたらしたのか話し合う ③必ず被災地へお金を届けるには
活動を通して学んだこと・感じたこと	○高校執行部と共同企画<募金> ・「長野には台風災害はない」といわれていたので、今回災害の恐ろしさを知り、あらためて危機感を持つことの大切さを知った。 ・身近なことで、親戚、友達が被害にあったからこそ、募金に対する思いが強く、積極的に協力してくれる人が多かった。 ・災害の現状を知り、募金を通して被災者に微力ながら貢献できてうれしい。 ・この教訓を生かして、これからの生活や今後を生かすことが使命だと思う。災害学習をしたい。 ・現実問題として、被災地の方々は「お金」が必要だとわかり、そこに人のあたたかい「心」というものが本当に大切だということを学べた。
今回の活動から考えられる次の行動	（抜粋） ・まず、これを続ける。 ・勇気をもって自分たちでも企画して実行してみる。 ・自分手。 ・危機感を持ち、災害が起こった時に素早く行動ができるように、避難などの知識をつける。 ・困っている人たちの力になる！



<小谷村立小谷中学校 3年1組>

テーマ	小谷の魅力を再発見し発信しよう
活動内容	（抜粋） ・集めた情報をポスターセッション形式で発表するために、生徒各自がポスターにまとめた。その課程で村の行政（特産推進室）に協力を依頼し、視覚に訴える効果的なポスターを作るための講習会を行った。 ・完成したポスターを南小谷駅、白馬駅に依頼して掲示した。（観光客に対する発信） ・10年後(2030年)の理想の小谷村の実現について、この先成長することが予測される技術（ドローン、自動運転技術など）と関わらせたり、村特産推進室の助言を受けたりしながら考えた。
活動を通して学んだこと・感じたこと	（抜粋） 中学校に入学した頃は自分の身の周りのことについてしか考えていなかったが、SDGsについて学んだことで、村の現在や未来のことまで考えを深めることができるようになった。また、実現が難しいことをただ訴えるのではなく、実現可能なものの実現に向けてどう行動していくかについて考えることができるようになった。
今回の活動から考えられる次の行動	・村の行政の今後の施策に、一つの意見・考えとして反映していただく。 ・SDGsの考え方を小谷中学校の総合的な学習の柱に据えて学習を継続していく。



<長野市立東部中学校 2年 パートナーシップ>

テーマ	みんなで広めようSDGs
活動内容	SDGsというものを知っている人がまず少ないと思うので、みんなに知ってもらえるように発信していく。 2年生今行っているSDGsとは何かを1年生に発表しSDGsに興味をもってもらう。 他の中学校や小学校に知ってもらうためのポスターを制作する。
活動を通して学んだこと ・感じたこと	ごみ拾いなど具体的な対策も必要だけれどSDGsを広めるためにはポスターやチラシをつくってまず知ってもらうことが大切だと思った。
今回の活動から考えられる 次の行動	学校の中ではなく外で広める活動をしたい。



<文化学園長野中学生徒会 美化奉仕委員会>

テーマ	世界に文房具を届けよう！
活動内容	2つの活動を軸にSDGsについて考えた。 【文房具集め】 質の高い教育をみんなに 不要になった文房具を集め、世界中に届ける（国内の被災地を含む） 【ベルマーク集め】 本校では集めていないベルマーク、集めている他校に送って学校間の交流につなげたい
活動を通して学んだこと ・感じたこと	（抜粋） ①文房具・ベルマーク集め 設置箱 ・定期的にHRなどで呼びかけることで、さらに集められると感じた。 ・ノートの数が想定よりも少なく、鉛筆などのペン類は多く集まった。 「未使用または未使用に近いもの」という決まりの中では、ノートはあてはまりにくいかもしれない。こちらも、呼びかけ方に工夫が必要である。 ②集まった文房具・ベルマークの集計 ・当初の文房具集めの期間中に思いついた企画のため、ベルマークを集めていることすら知らない生徒が多かった。通年の活動だということを、生徒の中に浸透させていきたい。
今回の活動から考えられる 次の行動	【文房具集め】 ・期間を設けず、通年で行う。高校生徒会にも呼び掛けて、学校全体の取り組みにしたい。 【ベルマーク集め】 ・発展途上国に送ることはもちろん、近隣でベルマーク集めの活動をしている小・中学校と協力して募集し、学校間の交流につなげたい。 【その他】 ・文房具やベルマークを集めてみて、家にある使わなくなったもの（テレホンカード等）を、幅広く集めることは、だれかの助けになるかもしれないことを実感した。今後も、様々な活動に取り組んでいきたい。